

鬼怒川ってどんな川?

鬼怒川は、上流から洪水とともにたくさんの土や砂が流れてくる川です。そして洪水のたびに、上流からたくさんの石が流れてきて新しい河原をつくります。

河原に草が生えてもすぐに流されてしまい、玉石がごろごろとした「れき河原」が作られます。この「れき河原」がたくさん見られるのが鬼怒川の特徴です。



鬼怒川の「れき河原」はこんなに広いよ!

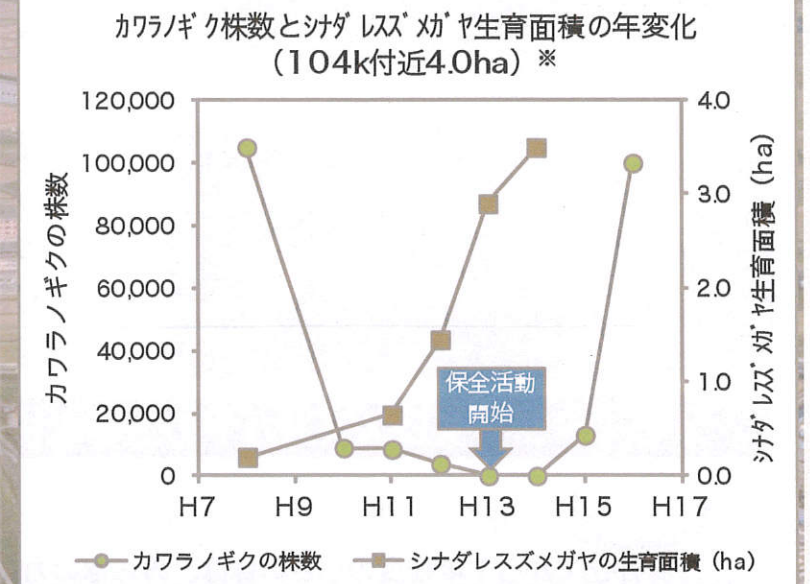
最近、「れき河原」の環境が悪化してるの?

近年、洪水が減り、川を流れる土や砂の量が少なくなってきました。

そうすると、河原に多くの植物が生えるようになり、鬼怒川らしい「れき河原」が減ってきました。

そのため、「れき河原」でしか生きられないカワラノギクやシルビアシジミなどが見られなくなってきています。

※東京大学保全生態学研究室より作成



鬼怒川の「れき河原」にはどんな生き物がいるの?

洪水により、繰り返し流されてしまうとても厳しい環境の「れき河原」ですが、ここにしか見られない珍しい植物や昆虫がすんでいます。

シルビアシジミ※



幼虫はミヤコグサをエサとしています。関東地方では鬼怒川だけで生息が確認されています。

カワラバツタ



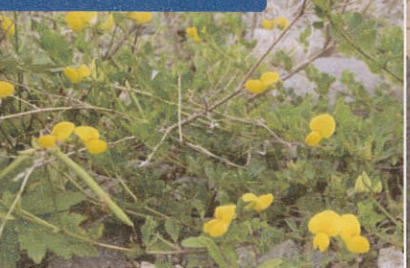
草木があまり生えていない石のごろごろした「れき河原」で見られます。

ツマグロキチョウ



幼虫はカワラケツメイをエサとしています。河原などの草地で生息しています。

ミヤコグサ



道端、海岸、河原など日当たりのよい環境で見られます。シルビアシジミの食草です。

カワラノギク



「れき河原」でしかみられない植物で、関東地方の一部の川でのみ生息が確認されています。

カワラケツメイ



関東地方から九州にかけての日当たりのよい河原・草地で見られます。

※写真出典：東京大学保全生態学研究室

シナダレスズメガヤって、どんな植物?

最近、鬼怒川の河原に生えるようになった植物に、外来種の「シナダレスズメガヤ」があります。今、鬼怒川で「シナダレスズメガヤ」の悪影響が問題になっています!



河原に生育するシナダレスズメガヤ

Q: どこから来たの?

A: 南アフリカ原産の外来植物です。戦後、斜面の緑化などのため使われました。

Q: どこに生えるの?

A: 「れき河原」や砂地に生えます。鬼怒川のある地区の調査では、1996年から数年間でカワラノギクが減ってしまい、急に生育地が広がりました。

Q: どんな植物なの?

A: イネ科の植物で、草丈が1mくらいの大きな株になります。根を砂や石ころの間にがちり伸ばすので、大きくなると洪水でもなかなか流されません。

Q: どんな悪影響があるの?

A: 根元に砂をためるため、「れき河原」から、砂ばかりの河原に変わってしまいます。また、高い背丈で周囲を日陰にしてしまい、カワラノギクやミヤコグサなどが育たなくなってしまいます。植物だけでなく、シルビアシジミなど、「れき河原」の植物をエサとする虫たちも生息できなくなり、河原の貴重な生態系が破壊されてしまいます。



日陰では育たない...